

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *

令和7年第26週 (6月23日～6月29日)



新型コロナウイルス感染症が減少しました

今週の竹田市調査医療機関からの報告数は6名と、先週の9名から減少しました。先週同様、20歳以上の報告が多い状況です。大分県全体の新型コロナウイルス感染症は、0.97と先週の0.97から横ばいです。

基本的な感染症対策として、手洗い・手指消毒とうがいを行いましょう。例年と比べて梅雨明けが早く、毎日暑いため、エアコンを使用することが増えていると思います。窓を閉め切った時間が長いと換気が不十分になりますので、定期的に窓を開けて換気を心がけてください。

食中毒注意報(第2号)が出ました

食中毒が発生しやすい気象状況になりました。食べ物の調理加工や保存について、十分に気をつけてください。

百日咳の流行について

全国的に百日咳の流行が続いており、第25週には累計35,810人となっています。大分県では、第1週から第25週までに累計254人の報告があり、第25週のみで42人、第26週のみでは34人(速報値)でした。県内保健所別では、大分市、西部(日田市・玖珠郡)、南部(佐伯市)の順で報告が多くなっています。年齢階級別では、10～14歳が一番多く、次に15～19歳、5～9歳の順となっており、小中学校や高等学校世代に多くみられる状況です。豊肥保健所管内からは、第25週に1人、第26週に1人(速報値)の報告がありました。

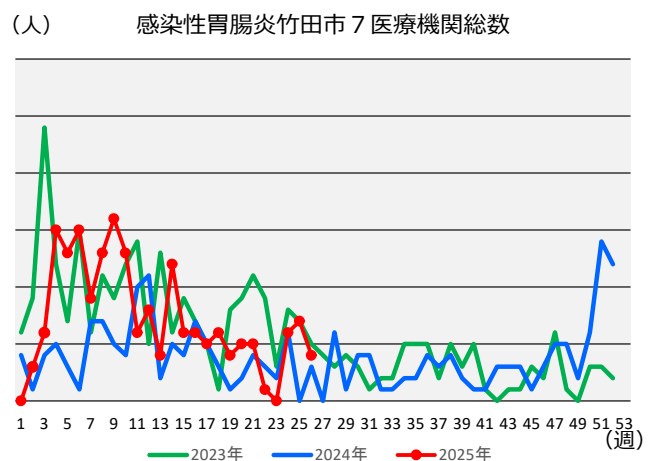
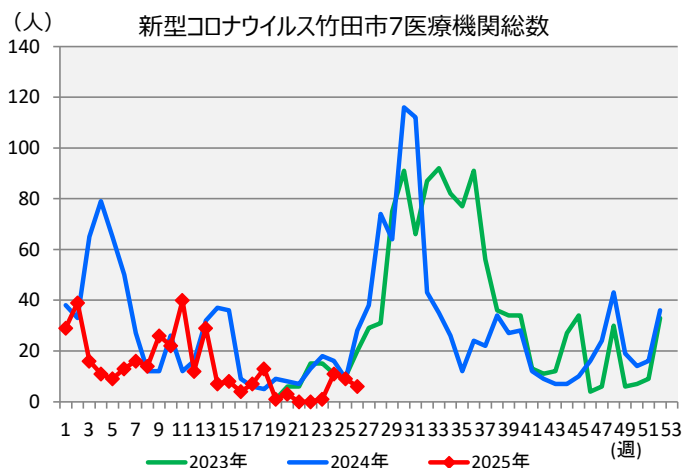
感染経路は、鼻咽頭や気道からの分泌物による飛沫感染や、感染者と接触したりすることによる接触感染とされています。手洗いやうがいなどの感染対策を行い、咳が出る場合は咳エチケットにご注意ください。



(第26週)

(調査医療機関8か所の総患者数：ただし1医療機関は休診中)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結核熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻疹(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
	A型	B型	不明																
0歳																			
1～3歳																			
4～6歳				1															
7～9歳																			
10～14歳																			
15～19歳		1																	
20歳以上				5				4											
今週		1		6				4											
		1																	
70歳以上(再掲)				1															
先週		3		9				7			1								



百日せきにご注意ください

百日咳菌の感染によって、激しいせきの特徴とする急性の気道感染症です。

乳幼児では、激しいせきによる

無呼吸発作

むこきゅうほっさ

チアノーゼ

顔色や唇、爪の色が紫色に見える状態

けいれん

呼吸停止



に進展することがあります。

こんな症状がみられます

カタル期（約2週間持続）
かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。

▼
けいがい

痙咳期（約2～3週間持続）
発作性、けいれん性の咳が出るようになります。合併症として肺炎や脳症などもあり、乳児では注意が必要です。

▼

回復期

激しい発作は次第に減衰し、やがて回復に向かいます。回復まで、全経過で約2～3か月かかります。

予防と対策

百日せきの予防には、生後2か月から定期接種として接種可能な5種混合ワクチン（DPT-IPV-Hib）等の接種が有効です。ただし、接種後年数が経過した人等での発病も見られます。マスク着用、手洗いなどの基本的な感染症対策を心がけましょう。



せきが続く場合は、医療機関の受診をご検討ください。

受診を迷った場合や夜間・休日の場合は、「こどもの救急 <https://kodomo-qq.jp/>」のサイトを参照したり、「#8000（こども医療電話相談）」にご相談ください。

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

 **厚生労働省**

感染症対策課 2025年5月作成

